

# 少子高齢化社会における第一次産業の維持発展方策に関する調査研究

<福岡県糸島市企画部秘書広報課との共同調査研究テーマ>

## 【背景・目的】

農業、水産業をはじめとする糸島市の第一次産業は、玄界灘や脊振山系といった自然資源の恩恵により、福岡都市圏内の一大供給地となっており、糸島市産業の要である。近年の「ブランド糸島」の普及促進により、食を求めて糸島市を訪問する者も増え、糸島市食材に高い関心が寄せられている。一方で、中長期的な視点に立つと、例えば、担い手の確保や、価格の安定化、あるいはTPP 等国際経済体制の変革への対応など、持続的、安定的な運営といった点で多くの課題を有している。これら課題について、糸島市・地域の有識者、実務家等の力を結集して取り組む必要があり、今回、調査研究を実施した。

## 【調査方法等】

具体的に、以下の調査研究活動を行った。

- (1)市域内の農業・漁業関係団体及び実際の第一次産業従事者へのヒアリング調査
- (2)農業センサスや糸島市の保有する情報に基づく情報分析
- (3)TPP の域内の生産・出荷に及ぼす影響の試算
- (4)国内各地で実施されている取組事例の文献調査と視察調査(千葉県いすみ市、兵庫県明石市 明石浦漁協、和歌山県田辺市秋津野ガルテン)

これらの情報を基に、市域における第一次産業の実態把握と強みとなる資源を抽出し、課題検討と今後の市域内の農業・漁業経営の在り方を調査した。

## 【調査分析結果】

農業経営に関しては、JA 糸島の販売額の3割強を支える直売所「伊都菜彩」は周辺都市からの集客拠点となっている重要な施設である。これらの“ブランド糸島”の発信機能も高い地域資産を活かし、「糸島市農業の多様性の維持・拡大」、「農産物直売所の出荷維持」、「新規就農者確保のための市独自施策の機能・拡充」、「データ集積・分析による農業の見える化」、「耕作地の多様な活用」が考えられるのではないかと考えられる。

漁業経営に関しては、直売所「志摩の四季」や「福ふくの里」、「伊都菜彩」への販路確保が漁労収入の向上、また、カキ養殖とカキ小屋が一体となったカキビジネスにより収入の安定化や漁家での後継者確保につながっている。漁業の今後に関しては、「高付加価値化による魚価の維持・向上」、「認知向上によるブランド化の推進」、「経営の複合化」、「つくり育てる漁業の更なる推進と変化する魚種への臨機応変な対応」、「新規就業者の受け入れ体制の充実」が必要ではないかという調査研究結果となった。

TPP に関しては、想定される販売額の低下による出荷額への影響を試算した。

## 【総括】

“伊都菜彩”や“志摩の四季”などの直売所、“ブランド糸島”、“カキ(カキ小屋)やマダイ”など、すでに強力なコアとなっている地域資源や大都市消費地に近傍にあるということや「農」と「漁」が近いという市の持つ地理的特徴を活かし、農業経営・漁業経営の今後について、支援施策や推進体制、経営マネジメントスキル向上のための機会創出の充実等が推進されることを期待する。